

27. 総務部総務課図書室

図書室長（総務課長併任） 飯野 賢一
編集委員長 阿戸 学

概要

図書室は二係あり、図書係が研究資料の収集管理提供サービス全般を、編集翻訳係が機関誌 JJID (Japanese Journal of Infectious Diseases) の編集発行を行っている。

[図書係]

図書係では、上記業務のほか、平成 23 年度より研究成果の収集保存が開始され、当業務も担当している(令和3年度収集件数(令和元年度発表分):766 件)

また三庁舎図書委員会の事務局として、委員会所掌事務の取り纏めや調整を行った。

令和3年度の資料受入状況及び文献相互貸借状況は、以下の通りである。

資料受入状況	洋	和	合計
雑誌	102	133	235
購入	80	5	85
電子版	79	1	80
交換	7	3	10
寄贈	15	125	140
単行本	121	240	361
購入	11	99	110
電子版	0	0	0
寄贈	110	141	251

文献相互貸借状況	供与	依頼	合計
総数	88	855	943
三庁舎間	53	53	106
外部機関総数	35	802	837
協力機関	20	59	79
国公立大学/機関	11	333	344
私立大学/機関	4	410	414

[編集翻訳係]

編集翻訳係では、令和 3 年は JJID 第 74 巻 1 から 6 号を刊行し、JJID ホームページでも全論文の PDF ファイルを公開した (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jjid.html>)。また、受理された論文は、冊子出版、オンライン公開に先がけて、毎月十報程度を Advance Publication として最終原稿のままオンライン公開を行った。

JJID 編集委員会においては、西條政幸委員長が令和 3 年 3 月末に退官し、阿戸学(感染制御部長)が新たに委員長に

就任した。また、次の通り委員の交替があった。令和 3 年 3 月末に柴山恵吾、花田賢太郎が退官により委員を辞した。令和 3 年 4 月に明田幸宏(細菌第一部長)、深澤征義(細胞化学部長)、砂川富正(実地疫学研究センター長)が、令和 3 年 5 月に見理剛(細菌第二部長)が、令和 3 年 8 月に海老原秀喜(ウイルス第一部長)が編集委員として加わった。また、令和 3 年 4 月より委員会規程を改正し、総括研究官を委員に加えたため、多屋馨子(感染症疫学センター予防接種総括研究官)、影山努(感染症危機管理研究センター検査対応総括研究官)、渡士幸一(治療薬・ワクチン開発研究センター治療薬開発総括研究官)が、編集委員として加わった。なお、委員からの申し出があった場合、または委員が承諾した場合は、委員長が当該委員の業務量・担当投稿論文数・専門分野を考慮した上で委員が所属する部局の editorial board(室長)を指名し editor 権限を付与することができることとした(本取扱は当該委員の申し出または同意により停止することができる)。

科学技術振興機構(JST)運営の電子ジャーナル共同利用センター(J-STAGE)が提供する電子投稿システム(ScholarOne)を利用して、投稿受付・査読・審査、掲載等(J-STAGE)の作業を行った。その運用も順調になされ、システム導入前の平成 24 年と比較して投稿数も 4.2 倍に増えた。海外からの投稿が 87%を占め、56 ヶ国に及んだ。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内同定の経緯、発生動向(アジアを含む)、基礎・臨床研究において、中心的な役割を果たされていた西條政幸先生と、ポリオウイルス及びワクチンに関する基礎・応用研究領域において中心的な役割を果たされていた清水博之先生に総説の執筆を依頼した。

新たな編集方針として、これまで受け入れていなかった PrePrint についての Policy を作成し、編集委員会の承認を得て、投稿できるようにした。

令和 3 年の JJID の発行頁数(掲載論文数)は以下の通りである。

1 号/86 頁(17 編)、2 号/87(17)、3 号/84(16)、4 号/84(20)、5 号/128(20)、6 号/112(22)。

表. 令和 3 年における投稿論文数と受理された論文数

	投稿論文数	受理論文数	特記事項
国内	110 編	49 編	感染研からの投稿論文数 17 編(内受理 15 編)
海外	786 編	37 編	56 ヶ国

平成 28 年までは論文受理から実際に論文が出版されるまで、約 1 年を要していたが、平成 29 年以降は各号に掲載させる論文数を増やしたことにより、その期間は短縮され、令和 2 年においても受理から実際に出版されるまでの期間は概ね 5~9 ヶ月であった。また、令和 2 年からは、新型コロナウイルス

ス関連論文が多数投稿されたことにより、投稿数は例年の約2倍増し、令和3年も約1.5倍増となった。